

## はじめに

新潟県内の個人消費関連の経済指標等をみると、外出自粛が緩和傾向にあることから、外食や旅行などのサービス業は移動制限の解除や自治体などによる需要喚起策の下支えもあり、持ち直しの動きがみられる。一方、半導体不足や海外工場などの稼働停止の影響から新車の納車遅延が長期化しており、新車登録は大幅な落ち込みが続いている。総じてみると、足元の個人消費は持ち直しの動きが鈍化している。

こうしたなか、個人消費の実態と先行きの動向を把握するため、4月下旬に県内勤労者400人（有効回答400人）を対象に、収入や消費支出の状況、ボーナスの支給予想等についてインターネットによるアンケート調査を実施した。

注：調査方法、調査の対象者数などの変更により、調査結果に不連続が生じているため、過去調査との比較は参考値となる

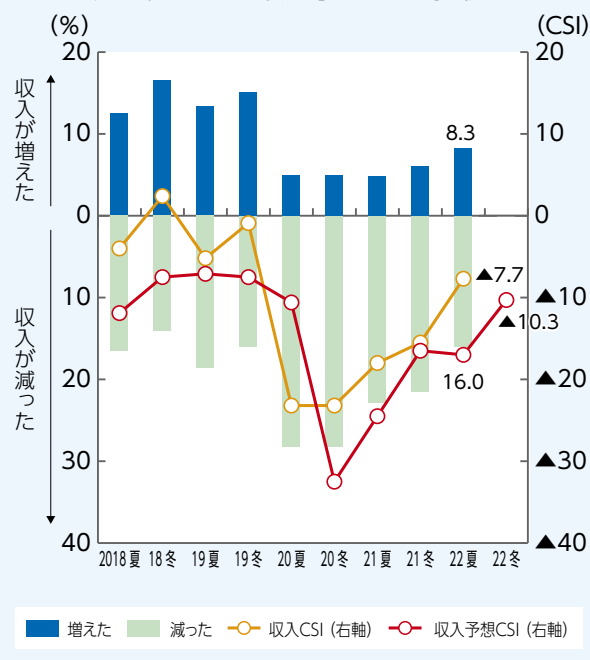
## 01 収入の推移

### － 3期連続の上昇 －

半年前と比べて収入が「増えた」と回答した人の割合は8.3%、「減った」と回答した人の割合は16.0%となり、収入CSIは▲7.7となった（図表1）。収入CSIは2021年冬の調査（以下、前回調査）と比べて7.8ポイント上回り、3期連続の上昇となった。

なお、回答者からは「働き方改革で残業がないうえ、新型コロナウイルスの影響による業績低迷でボーナス

■ 図表1 収入CSIと収入予想CSIの推移



#### ※CSI (Consumer Survey Index) とは

アンケートの回答結果を指数化したもので、ここでは「増えた・増えそう」と回答した人の割合から「減った・減りそう」と回答した人の割合を差し引いた数値のことをいう。CSIは、収入・消費支出が増加（改善）基調か減少（悪化）基調かといった「変化の方向」と、拡張・後退が速いか遅いかといった「変化のテンポ」を示すものである。

もカットされた」（40代男性）、「新型コロナウイルスの影響で原材料が入荷しづらい状況となっており、価格も上昇している。しかし販売価格に上乗せできずに利益の減少が顕著となっており、収入が減っている」（30代女性）との声が聞かれた一方、「勤務先の業績が新型コロナウイルスの影響による悪化から回復し、収入が増えた」（20代男性）、「ベースアップが実施され、4月から月額で5万円給与が増えた」（40代男性）、「半導体不足で部品の入手が困難となっている。代替策の実施で新たな作業が増えたため、残業時間

や残業代が増えた」(40代女性)といった意見があった。

今後半年間についても同様に尋ねたところ、収入予想CSIは▲10.3と、足元のCSIと比べて2.6ポイント低下した。先行きの収入について、「仕事で取り扱う小麦粉は昨年から値上がりが続いており、足元のウクライナ情勢をうけて一段と上昇している。会社の業績悪化が不安である」(40代女性)など、世界情勢の悪化や物価上昇から、勤務先の業況を懸念する声も寄せられた。

## 02 消費支出の推移

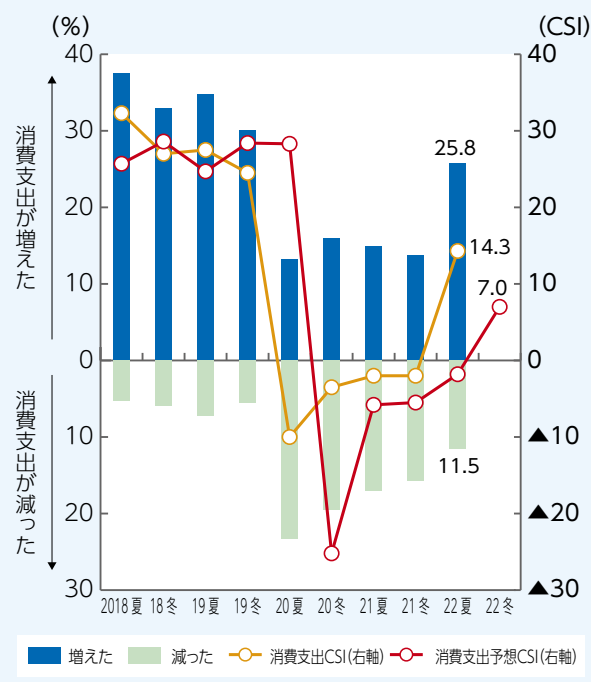
### － 5期ぶりにプラス圏に回復－

半年前と比べて消費支出が「増えた」と回答した人の割合は25.8%、「減った」と回答した人の割合は11.5%となり、消費支出CSIは14.3となった(図表2)。前回調査と比べて16.3ポイント上回り、新型コロナウイルス感染拡大前の19年冬の調査以来、5期ぶりにプラス圏に回復した。

回答者からは物価上昇に関する意見が多く寄せられており、「ガソリン代、灯油代が高騰した分だけ、支出が増えている」(50代男性)、「物価が高くなっているので、以前と同じように買い物をしていても支払う金額が増えてしまっている」(40代女性)など、ガソリンや食料品などの値上がりにより、消費支出が増加したとの意見があがった。一方、「商品の価格が上昇しているので節約意識が高まり、支出額はやや減った」(30代女性)、「電気代が高くなったので、たくさん着込んで暖房をつけないようにした」(20代女性)といった物価上昇に対応するため節約し、支出を抑えているとの意見も聞かれた。

今後半年間の消費支出についても同様に尋ねたところ、消費支出予想CSIは7.0となった。足元のCSIと比べて7.3ポイント低下しており、先行きの消費は慎重な見通しが示されている。

■ 図表2 消費支出CSIと消費支出予想CSIの推移



## 03 生活実感の推移

### － 4期ぶりに悪化。物価上昇に言及する声が多い－

半年前と比べて生活実感が「良くなった」と回答した人の割合は5.0%、「悪くなった」と回答した人の割合は32.0%と、生活実感CSIは前回調査と比べて2.8ポイント下回り、▲27.0となった(図表3)。生活実感CSIは新型コロナウイルスの影響から大幅に悪化した20年夏の調査を底に、3期連続で上昇していたものの、4期ぶりの悪化となった。

生活実感について、回答者からは消費支出と同様に物価上昇を要因としてあげる声が多く寄せられた。「多くの商品が値上がりしているが収入は変わらず、節約するのに苦労している」(50代女性)、「身近なものが値上がりしているので、生活のストレスが増している」(20代男性)など、物価上昇による家計への影響や節約に対するストレスから生活実感が悪化しているとの声が聞かれた。また、「新型ウ

イルスの影響による半導体不足や物流混乱、中国のロックダウンなどで欲しいものが簡単に手に入らなくなっている」(30代女性)、「勤務先で部品が計画通りに入ってこないため、仕事に繁閑の波があり、気持ちも体も振り回されてやりづらい」(50代女性)など、商品や部品などの輸送状況について不満の声があげられた。一方、「行動規制が緩和されたので、旅行するようになった」(60代男性)、「久しぶりに大型ショッピングモールに出かけた」(50代男性)、「3回目のワクチン接種が終わったので、外食を再開した」(50代女性)など、徐々に外出を増やしているといった意見もあった。

今後半年間の生活実感についても同様に尋ねたところ、生活実感予想CSIは▲31.8となった。足元のCSIと比べて4.8ポイント低下しており、先行きの生活実感は悪化が示されている。

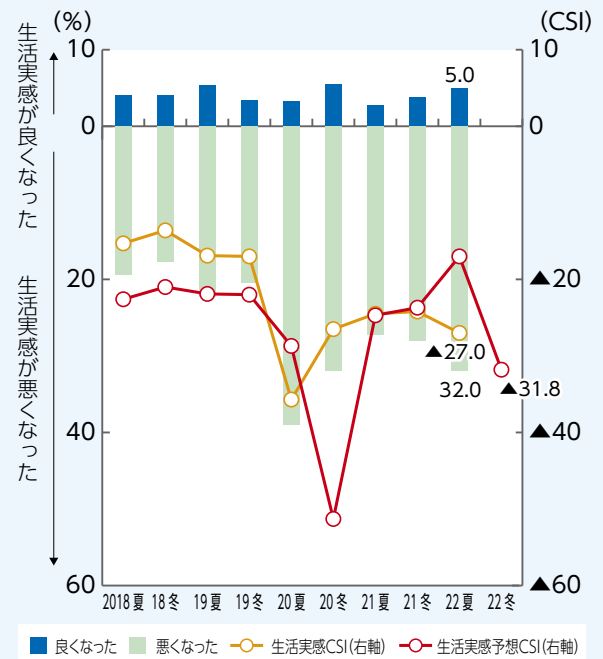
## 04 今後半年間における消費支出項目

### 〈消費支出が増えそうな項目〉

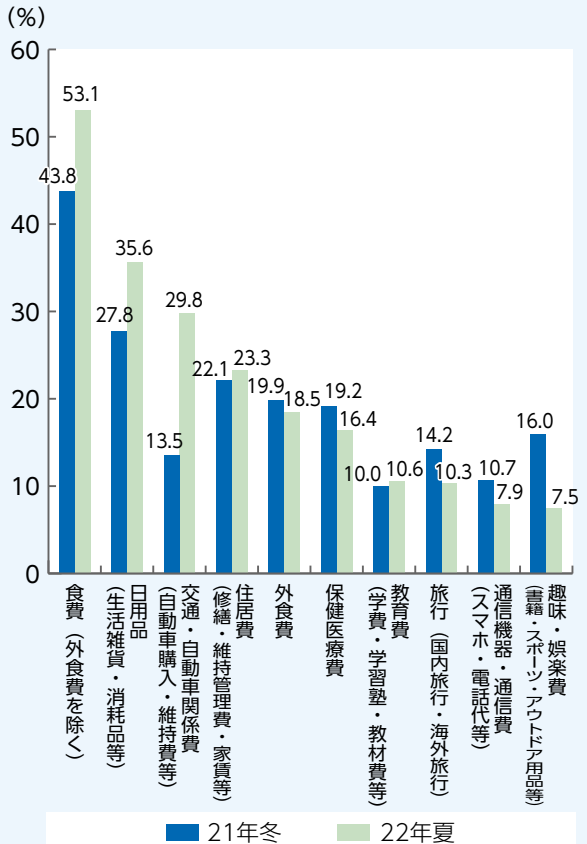
#### －「交通・自動車関係費（自動車購入・維持費等）」が大幅に上昇－

今後半年間の消費支出について「増えそう」な項目を尋ねたところ（複数回答）、「食費（外食費を除く）」の割合が53.1%と最も高くなった（図表4）。以下「日用品（生活雑貨・消耗品等）」「交通・自動車関係費（自動車購入・維持費等）」などの順となっている。前回調査と比べると、「趣味・娯楽費（書籍・スポーツ・アウトドア用品等）」「旅行（国内旅行・海外旅行）」などが低下した。一方、「交通・自動車関係費（自動車購入・維持費等）」「食費（外食費を除く）」「日用品（生活雑貨・消耗品等）」などが大きく上昇しており、ガソリンや食料品、日用品価格の高騰が反映されていることがうかがえる。今後半年間は生活に密着した項目への支出が増える見込まれる。

■ 図表3 生活実感CSIと生活実感予想CSIの推移



■ 図表4 消費支出が増えそうな項目(複数回答、上位項目のみ)



(注)「特になし」の回答者(n=108)を除く

# 05 物価上昇の影響

さまざまな商品やサービスの値上がりが相次いでいるなか、物価上昇が県内勤労者の生活にどのような影響を与えているのかについて尋ねた。

## (1) 物価上昇の影響

### －『物価上昇の影響がある』が約8割－

食料品やガソリンなど、身近な商品・サービスの値上がりによって日常生活にどの程度影響が生じているかを尋ねたところ、「かなり影響がある」「やや影響がある」との回答を合わせた『物価上昇の影響がある』の割合は80.3%と約8割を占めた（図表5）。一方、「あまり影響はない」「全く影響はない」を合わせた『物価上昇の影響はない』は4.8%にとどまった。なお、「どちらとも言えない」は15.0%となった。

当社では、原油価格（WTI原油価格）が史上最高値を付ける直前の08年夏に同様の調査を実施している。調査方法の変更などがあったため単純に比較はできないものの、08年夏の調査では『物価上昇の影響がある』の割合が75.5%であった。今回調査は08年夏の調査よりも4.8ポイント上回っており、過去の物価上昇局面と比べて生活への影響が大きいことがうかがえる。

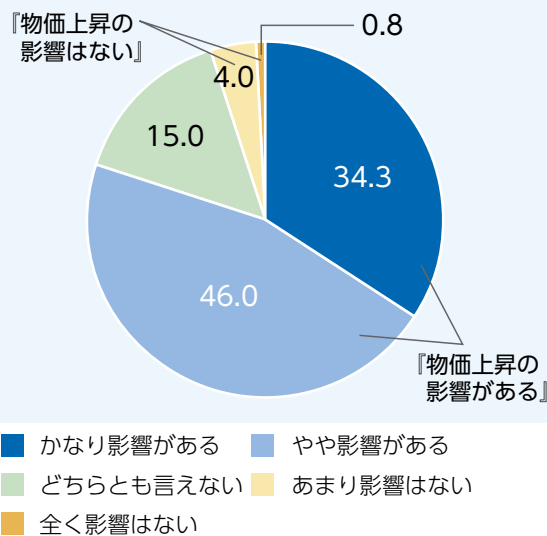
## (2) 半年前と比べて物価上昇を感じる品目

### －「ガソリン・灯油代」が8割弱でトップ－

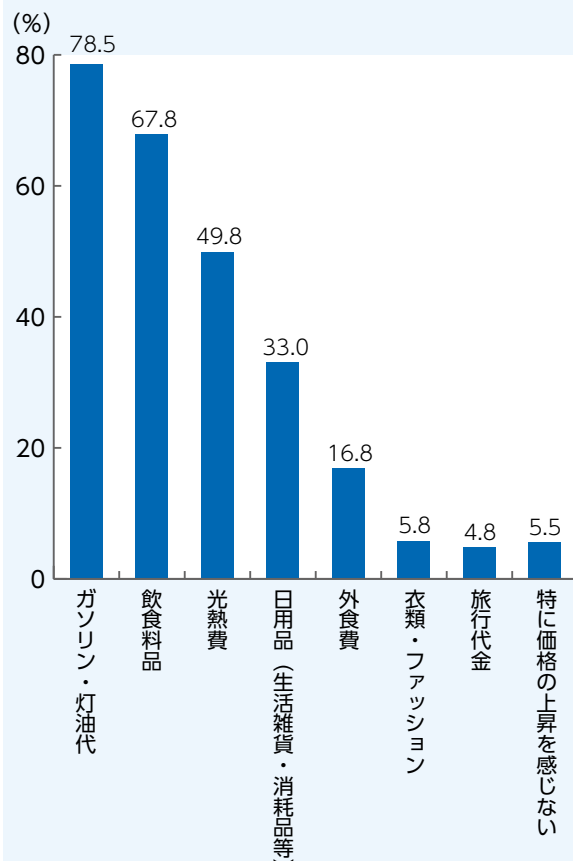
半年前と比べて物価上昇を感じる具体的な品目を尋ねたところ（複数回答）、「ガソリン・灯油代」の割合が78.5%と最も高くなった（図表6）。以下「飲食料品」「光熱費」「日用品（生活雑貨・消耗品等）」などの順となっており、生活に欠かせない商品、サービスが上位にあがった。

全国の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）をみると、4月の上昇率は前年同月比2.1%上昇となり、消費税率引き上げの影響を受けた15年3月以来、約7年ぶりの上昇幅となった（図表7）。「ガ

■ 図表5 物価上昇の影響



■ 図表6 物価上昇を感じる品目（複数回答、上位項目のみ）



ソリン」「光熱・水道」「食料」など、多くの品目が上昇しているなか、特に「ガソリン」の上昇が顕著となっている。新型コロナウイルスやウクライナ情勢の悪

化を背景とした原材料価格や物流コストなどの上昇が幅広い品目に波及している。

### (3) 物価上昇に対応するための工夫

#### －「安い店を選んで買い物をする」が5割弱－

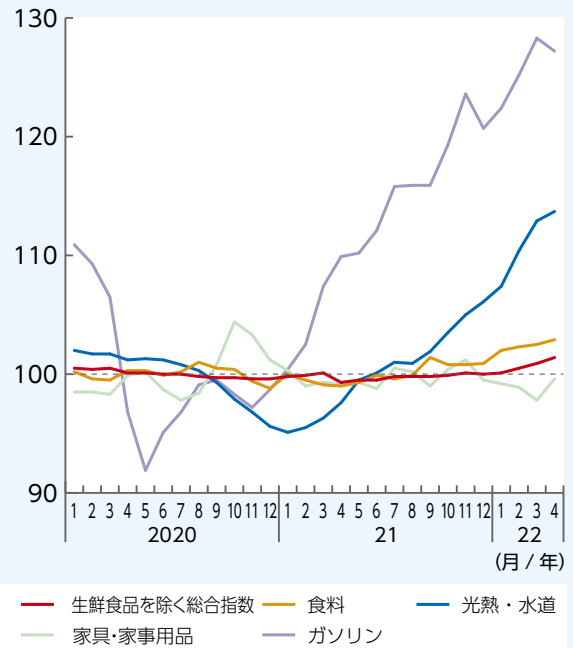
物価上昇に対応するため、どのような工夫をしているか尋ねたところ（複数回答）、「安い店を選んで買い物をする」の割合が47.8%と最も高くなった（図表8）。以下「ポイントやクーポンの使える店を選ぶ」「買い物に行く回数を減らす」「買う量、品数を減らす」「チラシや価格比較サイトを活用する」などの順となっている。

なお、「(2) 半年前と比べて物価上昇を感じる品目」では「ガソリン・灯油代」がトップとなった一方、「物価上昇に対応するための工夫」として「マイカーの利用を控える」割合は11.5%にとどまった。08年夏の調査においても同様の結果がみられており、「マイカーでの外出はなるべく控えたいが、通勤で必要なのでどうしても出費がかさむ」（40代男性）など、マイカーの利用は必要不可欠との声も多く、ガソリン代高騰は多くの消費者に重い負担を与えている。

回答者からは「ガソリン代が上がっているので給油の回数を減らし、安くなったときを見計らい、多めに給油するようにしている。なるべくマイカーの利用を減らすため、買い物を週2回から週1回にするようになった」（50代男性）、「ポイントを貯め、日用品はポイントで購入している」（40代女性）、「アプリで家計簿をつけたり、水筒を持ち歩いたりして節約している」（20代女性）など、物価上昇の影響を最小限にとどめるための対策があげられた。一方、「収入が上がらないなかで物価が上昇しているので、節約をせざるをえず消費意欲は低下してしまう」（30代女性）、「収入が増える見込みがないなか、食料品や日用品が高騰しているので、貯金を崩し始めている」（60代女性）など、工夫はしているものの、生活が苦しいとの声も複数あがっている。

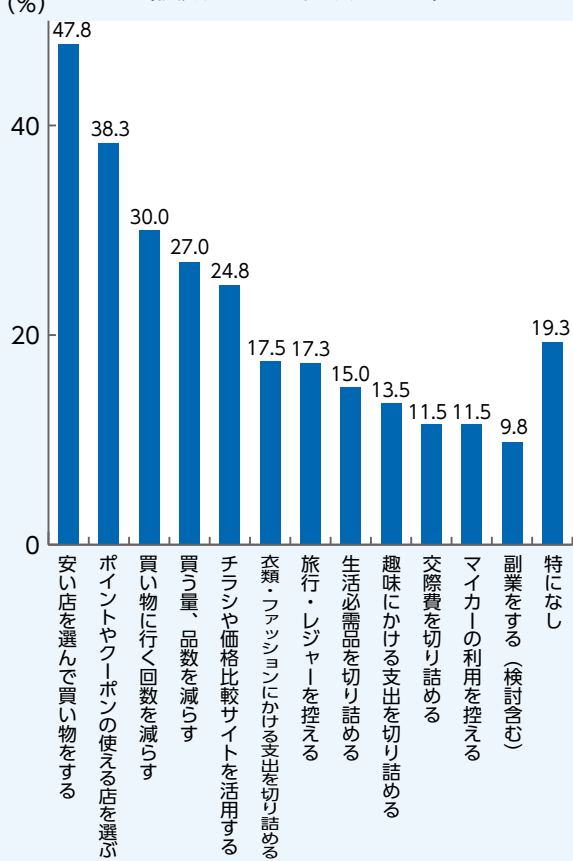
■ 図表7 消費者物価指数(全国)の推移

(2020年=100)



(資料) 総務省「2020年基準 消費者物価指数」

■ 図表8 物価上昇に対応するための工夫 (複数回答、上位項目のみ)



# 06 ボーナス支給予想・使途

## 〈ボーナス支給予想〉

### － 21年夏の調査に比べてわずかに上昇－

今夏のボーナスが去年の夏と比べて「増えそう」と回答した人の割合は4.3%、「減りそう」と回答した人の割合は24.8%となった（図表9）。その結果、ボーナス支給予想CSIは▲20.5となり、21年夏の調査を0.8ポイント上回り、2年連続で上昇した。

## 〈ボーナスの使途〉

### － 「買い物」「預貯金等」の割合が大きく低下－

今夏に「ボーナス支給がある」と回答した305人を対象に、ボーナスの使途について尋ねたところ（複数回答）、「預貯金等」の割合が56.4%と最も高くなった。以下「生活費の補填」「買い物」などの順となった。21年夏の調査と比べると、「買い物」「預貯金等」などが大きく低下した。

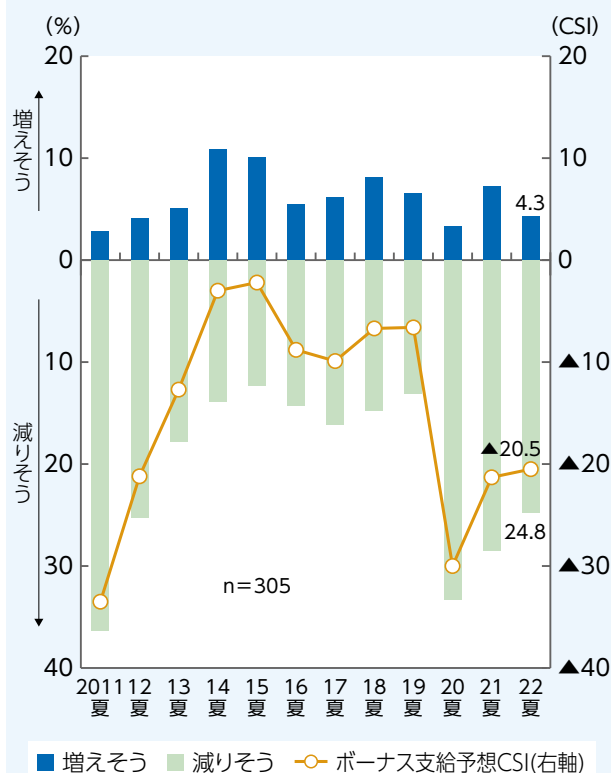
## まとめ

今回の調査では、「収入」「ボーナス支給予想」とも上昇し、新型コロナウイルスの影響による所得の落ち込みが徐々に和らいでいることが示された。「消費支出」も上昇し、5期ぶりにプラス圏に回復した。回答者からは「行動規制が緩和されたので、旅行するようになった」など、外出型の消費行動に前向きな声も聞かれた。ただし、回答者から寄せられた意見をみると、「消費支出」の上昇は物価上昇による要因も大きいと思われる。

今後も多くの企業が商品などの値上げの意向を示していることから、物価上昇の影響はさらに広がることが予想され、消費マインドの低下や生活実感の悪化が懸念される。

(2022年6月 近)

■ 図表9 ボーナス支給予想CSIの推移



### 【調査の要領】

1. 調査時期  
2022年4月下旬
2. 調査方法  
インターネットによるアンケート調査
3. 調査の対象者  
インターネット調査会社の登録モニターのうち県内の勤労者400人

		人数	構成比 (%)
合計 (内訳)		400	100.0
性別	男性	201	50.3
	女性	199	49.8
年代	20代	64	16.0
	30代	77	19.3
	40代	91	22.8
	50代	91	22.8
	60代	77	19.3
婚姻	未婚	174	43.5
	既婚	226	56.5

(注) 図表の数値は四捨五入をしているため、回答割合の合計が100.0%とならない場合がある